



みどりの風

公益財団法人
 奈良市生涯学習財団 月ヶ瀬公民館
 奈良市月ヶ瀬尾山 2815 番地
 TEL&FAX 0743-92-0346
 発行人 館長 上田 善紀
 発行日 平成29年11月24日(金) 第9号

月ヶ瀬文化祭特集③

ロバザー紹介



手際よくわた菓子をつくる松本 直之さん(石打)

里山の保全を目的として平成25年に設立したのが「月ヶ瀬みらい」(会長・松本直之さん)。道路や山林整備を兼ねた炭や薪づくりなどをする一方、地区内のイベントにも積極的に携わるなど、地域振興に大きく貢献している皆さんです。この日は、わた菓子200本、子どもたちにふるまわれました。

■松本直之さん(石打)：15人ほどのメンバーですが、月ヶ瀬を元気にしたい一心で、みんな手弁当でがんばっています。



⇐ 漁業組合で250匹の大きな鮎を焼く猪岡 雅哉さん。JA月ヶ瀬支店女性部の、和気あいあいとした店頭です。↑



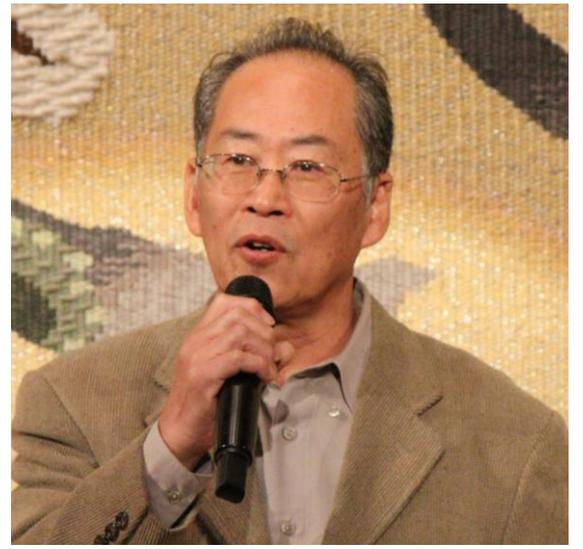
⇐ ロマントピア月ヶ瀬の模擬店では、味自慢のたい焼き。月ヶ瀬産の抹茶入りが自慢です。350匹のたい焼きが完売しました。

⇒ 「月ヶ瀬みらい」でたこ焼きを焼く西浦 武勇さん。イベント慣れた手つきで80食を売りました。



月ヶ瀬薫風

文化祭の楽しみの一つがバザー。7つの団体による出店で、多くのお店では売りの切れ続出、にぎわいを演出していただきました。私も農協女性部の最後のおでんをいただきました。▼中学校では、自校製梅干し「月ヶ瀬ルビー」を販売。世界遺産学習の一環として、ラベル作りからネーミング、ラッピングまで行っているということ。▼テント立てなど前日の会場作りには、皆さんが協力しての設置。特に、漁協の皆さんには、設置から撤収まで多大な力添えをいただきました。紙面を通じてお礼申し上げます▼青年の皆さんが中心の「月ヶ瀬みらい」。空き家となった古民家を利用してシエアの運営にも携わっているというところです。



新しく地域振興協議会の会長に就任した、副実行委員長の坂西 偉樹さん(尾山)が閉会の言葉で締められました。

学習発表会(小学校) 担任の先生に聞きました。

■藤原 克己さん(5年担任)：本物の尾山万歳は、滑稽な言ひ回しや表情が実におもしろい。しかし、14人の動きを揃えることで一定のリズムになってしまい、滑稽な節回しが表現しにくいなっています。とても難しかったです。簡単なものではなかった…。
■登り多恵子さん(6年担任)：…初めての狂言の指導に、節回しなど悩みながら稽古をつけていった。子どもたちはほんとうによくがんばってくれた。貴重な伝統芸能が残っている月ヶ瀬で、またとない体験をさせてもらいました。

月ヶ瀬小・中学生のみなさんへ

伝統を受け継ぐ月ヶ瀬っ子③

11月17日(金)、多目的ホールで小学校の学習発表会が行われました。例年通り5年生は尾山万歳を、6年生は狂言を演じていました。連続と続く郷土の伝統芸能に対して、自分たちが受け継ぐんだという気持ちもこもった、いずれもが素晴らしい演技を見せてくれました。

(右から) 大夫の中峯 大心くん、東口 楓侑くん、田端 寿光くん、岩田 文地くん(5年)



【5年生・尾山万歳】

○奥田 祐美さん：お客さんに笑ってほしいところがあったので、その一つ一つを笑って聞いてほしいと思いました。

○大白 美羽さん：練習では大きな声を出さないといけないので、のどがとてみたい。でも、その分今日はずいぶんいけたのでうれしかったです。

○東本 圭莉菜さん：ふだんから声の小さい私なので不安いっぱいでした。でも、しっかりと声を出せてよかったです。

○橋本 千陽さん：だれが教えてくれるんやろって心配でしたが、2人とも知っている人だったので安心して教わられた。だいぶ、やさしく教えてもらいました。

○相和 小町さん：笑うところは笑ってくれたところ、練習以上に、おもしろさが出せたと思います。

○松本 菜月さん：去年の5年生に負けないような演技をしたいなと思っていました。笑ってくれた回数が多かったの、がんばってよかったです。

【6年生・子供狂言】

○久保田 清丸くん：練習中の自分の映像を見て、声が出せていないことに気づいたので、本番では意識を強く持つて演技をしました。

○西原 乃愛さん：主人に似たようなせりふが多かったので、私のせりふをまわがって飛ばしてしまっていました。まわがわらずに言えてよかったです。

○尾上 崇和くん：お腰元では、顔にシールを貼って化粧しました。へんな顔になって、ちよつとはずかしかった。

○畑家 快翔くん：場面によってせりふの抑揚を変えなければいけないところを意識してやった。泣くところと壺をあおぐところを精一杯演技しました。

○西上 剣心くん：「うまへつたまらう」という演技では、思い切り笑いながらうまい口調で言えました。自分でもうまへつた確信がありました。

○新中 康人くん：観客に背を向けて話すとき声を通らないことがわかったので、本番では、意識して声を精一杯出しました。

○西脇 春菜さん：「釣針」では、声に抑揚をつけてせりふをいわなければなりません。声のトーンを上げたり下げたり、意識してしっかりと演技しました。



「附子」：あおげあおげ、あおぐぞあおぐぞと言いながら、砂糖壺に近づいていく有名な場面